

山梨県南アルプス市に 新生産拠点を建設

総投資額は150~250億円、2021年度の稼働めざす



コーセーは、山梨県南アルプス市に新たな生産拠点(仮称「南アルプス工場」)を建設し、今後の需要拡大に向け、中長期で安定的に対応できる生産供給と品質管理体制の構築に取り組む。なお、新生産拠点は2021年度の稼働を予定しており、総投資額は150~250億円を見込む。

現在、同社は「世界でN2026の実現に向けた存在のある企業への進出」を掲げ、積極的な事業展開を進めており、近年の国内外で拡大する化粧品需要に対し、2017年には群馬工場内に新生産棟を稼働し、2018年には狭山工場を再整備するなど、生産能力拡大を図ってきた。

新生産拠点については、スキンケア・ヘアケア製品を中心とし、今後の需要拡大へのスピーディな対応が可能となる工場の建設を予定している。具体的には、南アルプス山脈で育まれた清澄な水と美しい自然に囲まれた環境の下、ISO22716化粧品GMPに準拠した生産環境、万全な品質保証体制の中で生産することにより、新たな価値を加え、経済性・機能性に優れた環境配慮型の工場として整備していく。

また、新生産拠点の稼働後は、各生産拠点のフレキシブルな活用により、高品質で競争力の高い製品の確保でタイムリーな供給と、在庫・コストの低減等により、さらなる経営基盤の強化につなげていく。

新生産拠点概要は建設予定地「山梨県南アルプス市」において、持続可能な社会の実現に貢献する。また、2019年品のための持続可能なパッケージングへの取り組みとして、再生可能なPET樹脂を採用している。

今後は、独自の技術や社外とのコラボレーションを通じて、商品の使いやすさや美しさだけでなく、環境への配慮を追求し、容器の開発などを行う。環境負荷の最小化を目指していく。

資生堂

生分解性化粧品容器の共同開発を開始
カネカと海水中で高い生分解性を持つ
容器の早期実用化めざす

資生堂は、カネカと海水中で高い生分解性を持つ独自素材「カネカ生分解性ポリマーPHBH(100%植物由来のバイオポリマー)」の化粧品容器などへの活用を目指し、共同開発を開始することに合意した。今後、化粧品の容器や用具、包装資材、什器など様々な用途への可能性を両社で協議・検証を重ね、早期の実用化を目指す。

資生堂は、2019年品のための持続可能なパッケージングへの取り組みとして、再生可能なPET樹脂を採用している。今後は、独自の技術や社外とのコラボレーションを通じて、商品の使いやすさや美しさだけでなく、環境への配慮を追求し、容器の開発などを行う。環境負荷の最小化を目指していく。

ス市▽敷地面積11万1千㎡▽生産能力1億5255㎡▽主要用途化粧品、スキンケア、ヘアケア製品

アリエミロットグループ

産学連携に基づく3つの新技術を CITE Japanで紹介

アリエミロットグループは、第9回CITE Japanに出展し、産学協同で培った自社独自の技術を披露する。同社は、神奈川大学や明治薬科大学などと連携し、産学連携による技術革新を進めてきた。今回の展示では、この成果として3つのオンライン製品開発提案を中心に紹介していく。



石橋奈央子社長

携では、カチオンフリエで一定のダメージを「シリコン」を開発し、広範囲のヘアケア製品開発につなげている。技術発表にも、OEMメーカーとして唯一参加し、同大学

「高い浸透性を表現! コスメティックデリバリー技術を活かしたスキンケア製品の開発」(17日13時50分~14時20分、F会場)と題した提案を行う。有効成分の内包率向上と導入的機能性を発揮する「コスメティックデリバリー(CDS)技術」という独自のシステムについて、詳細なデータをまとめて説明し、認知度を図っていく。

資生堂は、2018年より日本企業として初めてSPICE(Sustainable Initiative for Cosmetics)化粧

材料技術誌の「技術賞」を受賞 セラミド脂質を水中に配合する革新的技術で

ポーラ化成工業

ポーラ化成工業は、材料技術研究協会が刊行する材料技術誌「平成30年度論文賞表彰」にて、「水中におけるセラミド脂質のユニークな微粒子分散系の調製と角層への有用性に関する研究」(発表者: 赤塚秀貴氏、加治恵氏、土屋好司氏、酒井秀樹氏)と題した論文が技術賞を受賞し、4月20日に授賞式が行われた。



セラミドを水中に配合する革新的な技術が、社会に対し多大な貢献をした点が評価された。健康で美しい肌の維持に欠かせない角層細胞間脂質の中でも主成分であるセラミドは、角層機能の維持に働くため多くの化粧品に配合されている。しかし、セラミドが脂質であることから、水に溶けきれなかったり、沈殿してしまったりするなどの課題があった。この課題を克服するために、セラミドを含有したナノレベルの楕円状微粒子を作製し、この微粒子を配合した化粧水を肌へ塗布すると、角層細胞が成熟し、角層の水分蒸散量が抑えられるという効果も確認している。

論文賞は、材料技術研究協会が編集・発行する研究論文雑誌「MATERIAL TECHNOLOGY」に掲載された論文の中から、特に優秀であると認められた論文を選出し、表彰するもの。今回は、

セラミドを水中に配合するには、セラミドを水になじみやすい成分と一緒に微粒子化することがポイントと考えた同社は、セラミドと組み合わせる成分の種類や比率を研究戦略に基づいて、新

(禁無断転載) ©R
本紙の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、堅く禁じられています。本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。